

「救命のリレー」活きる

応急手当のタクシ―乗務員を表彰

中区伊勢佐木町の路上で心肺停止の男性を心臓マッサージ等で救ったとして、中消防署は8月17日、タクシ―乗務員の久高将信さん(60歳)に署長表彰を贈った。

中消防署によると、4月

19日の正午頃、伊勢佐木1丁目路上で、突然心配機能が停止した男性を久高さんが発見。人工呼吸や心臓マッサージ等の応急手当を行った。そこに、近くの有料制場外馬券売場「エクセル伊勢佐木」職員が備え付け

のAED(自動体外式除細動器)を持って駆けつけ、さらに偶然通りかかった消防職員がこれを使用。到着した救急隊に引き継がれた。男性は搬送された医療機関で治療を受け、現在は日常生活ができるまで快復しているという。



高澤中消防署長から感謝状と記念を贈られた久高さん(左)

表彰を受けた久高さんは「会社で応急手当の講習を受けていたので、自然に体が動いた。講習を受けていて本当によかった」と話した。今回の人命救助活動について高澤幹夫署長は「講習を受けた方、付近の方が運んできたAEDによる除細動、そして救急隊という救命のリレーが適切に行われた素晴らしい事例」と評価している。